

ヒメシルビアシジミは長くシルビアシジミの八重山諸島亜種：*riukuensis* とされてきたが、DNA解析と形態の再検討によって、シルビアシジミとは系統が異なる別種であることがわかり、2009年に、シルビアシジミ：*Zizina emelina* とヒメシルビアシジミ：*Z. otis* とに再分類された。

筆者はこのチョウを長い間ハマヤマトシジミだと誤って同定していて、よく観察すれば前翅裏面中室の黒点1個を欠くことで容易に判別できる話だが、結局1996年に石垣島の川平で初めて本種と出会っている。与那国島では2003年に台湾ヒメシジミが発生した場所での出会い、2007年には石垣島のレストラン裏庭草地の低い位置をちらちらと飛び回る多くの個体が、ときには黄色い小さな花で吸蜜する姿を見たが、小さい体で低い位置での行動が多いため、満足できる撮影記録ができていない。以下、蝶紀行本文から抜粋。

Nov. 2, 2003 与那国島

台湾ヒメシジミが発生している現場につくと、いるわいるわ4-5人のネットをもった愛好者が広場のあちこちで足元に地をはうように点在する食草ヒメノアズキを目印として、それこそ目を皿のようにして台湾ヒメシジミを探しまわっている。残念なことに高台となった広場には強い風が吹き付ける状況で、ただでさえ見つけにくいと思われる小さいシジミチョウがのんびりと遊んでくれる状況には程遠い。資料館建物の風の影響が少ないと思われる側へと回りこむと、当然ながらそこにも先達の愛好家が地面をのぞきこむようにして歩きまわっている。そのとき突然何か小さいチョウの動きが目に入る。愛好家いわく「シルビアシジミですよ。ここのは超小型亜種ですよ」台湾ヒメシジミでないのは残念だけど、通常のシルビアシジミも採ったことのない筆者には貴重なチョウとして確保する。



Nov. 5, 2007 石垣島真栄里

レストラン南側の裏庭部分に黄色い花が乱れ咲いて小さなシジミチョウがまさに乱舞している様子が見える。クロマダラソテツシジミなのかどうか、遠めに確認できる範囲では尾状突起はないようで、ヤマトシジミでもなさそうだがもっと近寄らないとよく分からない。まだ食事の途中であるが、急ぎ車からビデオカメラとネットを取り出し、スタッフに断りを入れて裏庭に出る。間近に観察できてはじめて、それらがヒメシルビアシジミだと分かる。カメラで迫るには位置が低く、なかなかいいショットがえられない。たまたま用があつて外に出てきた調理担当のおばちゃんが「何がいるのかね」とのぞきこんでくる。割合珍しいチョウがここでは沢山遊んでいると話し、新鮮な個体を3頭だけネットインしてひきあげる。



Nov. 5, 2007
石垣島真栄里
ヒメシルビアシジミ♀